



# R3年度キャリア・パスポート活用 事業研究報告書

島根県立吉賀高等学校

教諭 中村 美楠子

## 吉賀高校でキャリア・パスポートを導入し、活用するために実施してきたこと

### H31-R1年度

- ・キャリア・パスポートについて教職員研修
- ・教職員で「育てたい資質・能力」について協議
- ・1年生で試験的にキャリア・パスポート導入

### R2年度

- ・R2年度当初に「育てたい資質・能力」を整理し、ルーブリック評価表作成(14項目)
- ・グランドデザインにも「育てたい資質・能力」を反映
- ・全学年でキャリア・パスポート導入、ルーブリックを用いて自己評価
- ・R2年度末に、教職員で「育てたい資質・能力」について再協議(14項目⇒8項目に精選)

### R3年度

- ・キャリア・パスポートの活用の幅を広げるための取り組み
- ・次年度へ向けて、小中高どのように繋いでいくか検討(小・中学校訪問調査、町教委担当者と協議)
- ・「校内カリ・マネ研修」で、各教科で「育てたい資質・能力」を伸ばしているかを半期ごとに振り返り
- ・生徒向け・教員向けに非認知能力を伸ばす大切さについての講演会(岡山大学 中山芳一准教授)
- ・非認知能力を学校全体で意識し、伸ばしていくための先進校視察(岡山県立一宮高校)

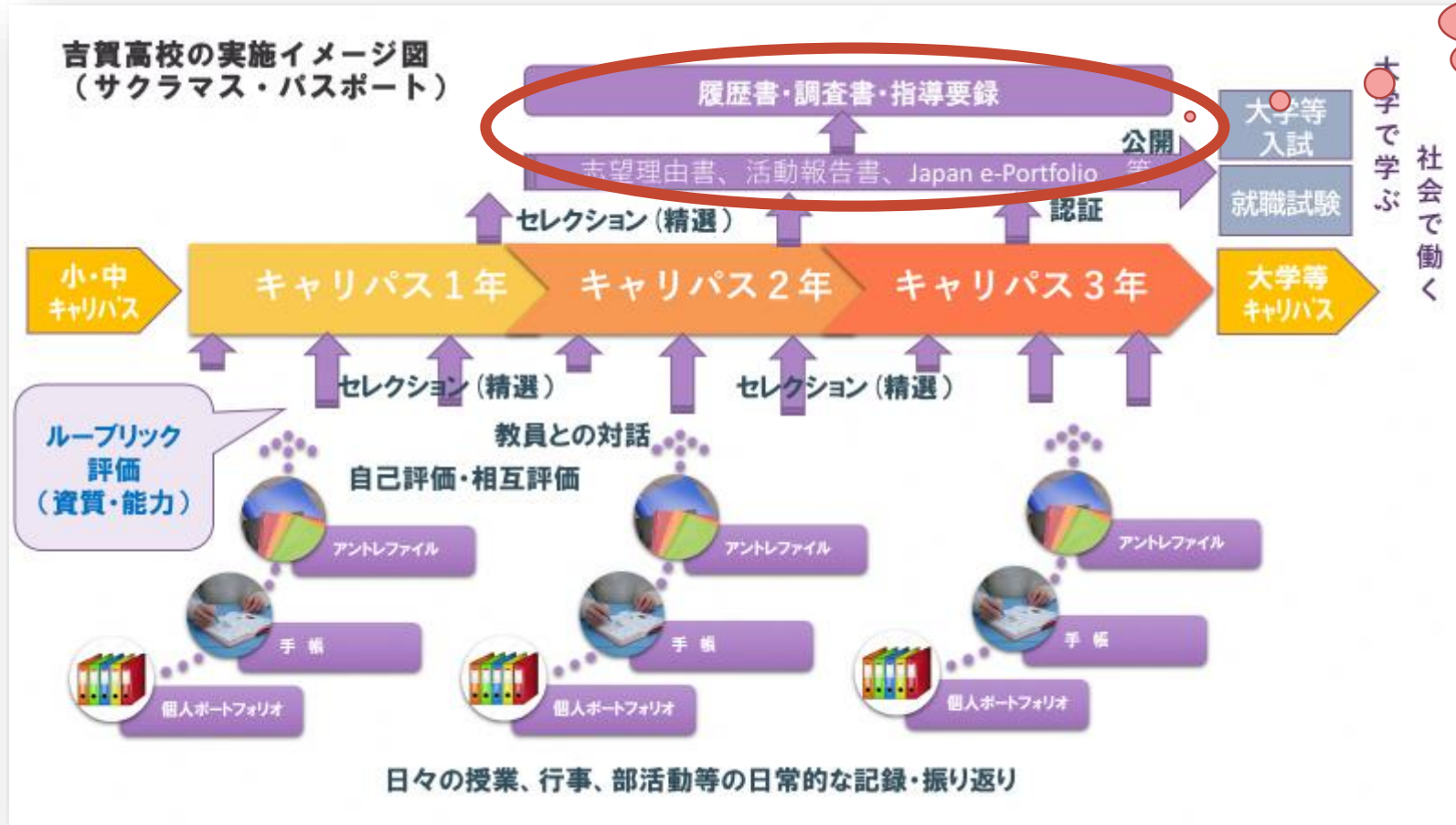
## R3年度報告書でお伝えすること

- 1) 生徒のキャリア・パスポートの活用の幅を広げる取り組み
- 2) キャリア・パスポートの小・中・高連携へ
- 3) 校内でのキャリア・パスポートの活用(カリキュラム・マネジメントの視点で)

# 1) 生徒のキャリア・パスポートの活用の幅を広げる取り組み

## R2年度当初の実施イメージ(下図)

当初、志望理由書や履歴書・調査書・指導要録に活用するイメージだったが、それだけだと教員にとって有益だが、生徒にとっての有益性を実感できないかもしれないと考え、他に活用する場面はないかと考えた



これだけ??

# 1) 生徒のキャリア・パスポートの活用の幅を広げる取り組み

ただ「書く」だけでなく、キャリアパスを活用し、アウトプットの場を創出

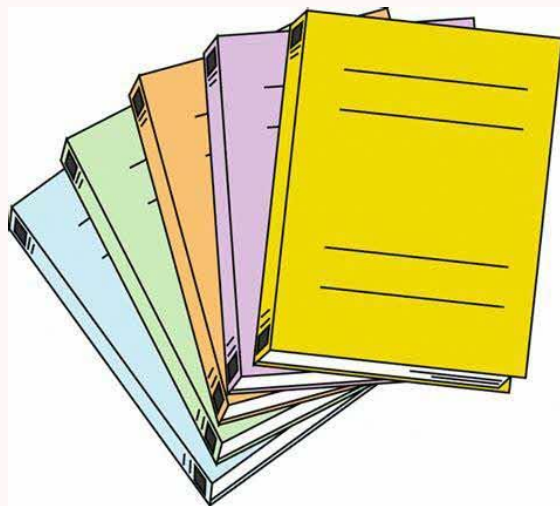
## キャリアパスの活用場面

大学入試  
志望理由書・面接等

就職試験  
履歴書・面接等



主に自分のため



主に他者のため

校内で  
3年間の学びを発表



小学生と交流  
人生を語る先輩トーク



## 3年生 アントレ最終発表会

キャリア・パスポートや探究ファイルを見ながら、自分自身の2年半のアントレの学び、地域の人や大学生と交流する意義、3年間の成長と将来に向けて考えていることをまとめ、1・2年生に向けて発表した。(1人10分)



サクラマス・とーく！  
(小学生と交流)

高3生全員が町内の全ての小学校へ行き、  
5・6年生と交流(12月)  
小学生と一緒に人生を振り返り、より充実した生活を送れるように対話をする時間。  
キャリアパスを見ながら、人生グラフや人生紙芝居を作成。



## 1) 生徒のキャリア・パスポートの活用の幅を広げる取り組み

### 高校生の感想より（キャリア・パスポートの有用性について）

- ・アントレ（総合的な探究の時間）の最終発表会では、3年間をまとめて発表しないといけなかったが、2年次の話をするときには当時の感想が残っていて役に立った。また、「できなかったことができるようになった」と書いてあって、自分のことながら嬉しくなった。
- ・アントレの最終発表会のために3年間を振り返ったが、それだけで懐かしく涙が出そうになった。色々なことをしてきたなあと感動した。また、その学びを下級生に発表をしたことで自信もついたり、大学進学での自分が持てる武器となって良かった。
- ・自分ではなかなか気づけない「アントレや他の活動が自分の夢にどう繋がっていたか」など色々なことを考え言語化できた。自分の成長したであろう部分を理解しやすかった。
- ・アントレの最終発表や志望理由書を書く際、当時自分が何をどう感じてどのような行動をとったのか忘れていた部分があったが、それを思い出して原稿を書くことが出来た。

## 1) 生徒のキャリア・パスポートの活用の幅を広げる取り組み

### 小学生の声<「サクラマス・とーく！」の感想より>

- ・ 高校生の話を聞いて、高校生になるまでも色々あるんだなと知りました。私もそうやって今からの人生つらいこともあるかもしれないけど、**頑張って生きていこうと思いました。**
- ・ 高校生がぼくの聞いたことに対して一生懸命答えてくれたのでよかったです。**高校生が、中学や高校はとても楽しいと言っていたので、楽しみにになりました。**
- ・ 1対1の対話では、これから心配な事や不安な事を話しました。中学校で初めて会う人と仲良くできるかを聞きました。以前校長先生と話したときに「そんなに考えなくても大丈夫だよ」と言われたけどやっぱり心配で聞いてみました。**だけど今日高校生と話したおかげで、もう中学校の心配が無くなりました。**
- ・ 高校生と話をして、だいたいの進路が決まりました。**高校生が言っていたように、勉強を頑張りたいと思えるようになりました。**コロナの影響で他の学校の人たちとの交流の機会がほとんど無かったので、高校生の皆さんが来てくださって、有意義な時間を過ごすことができました。とても楽しかったです。
- ・ 高校生一人一人の強い思いが印象に残りました。**自分もそういう風に強い気持ち、変えたい気持ちが持てるようにがんばりたい、**そう思いました。



## 1) 生徒のキャリア・パスポートの活用の幅を広げる取り組み

### キャリア・パスポートの活用の幅を広げた意義

・ 高校内外で、キャリア・パスポートを活用し、自らのキャリアについてアウトプットする場を設けたことにより、吉賀町サクラマスプロジェクトで目指す生徒像を実現することにつながった。

・ 今後、小学校・中学校時代のキャリア・パスポートを持ち上がってくることになるので、その活用も考えたい。



小学校・中学校の実施状況を把握し、どのような「キャリア・パスポート」を繋いでいけばよいかを考えよう

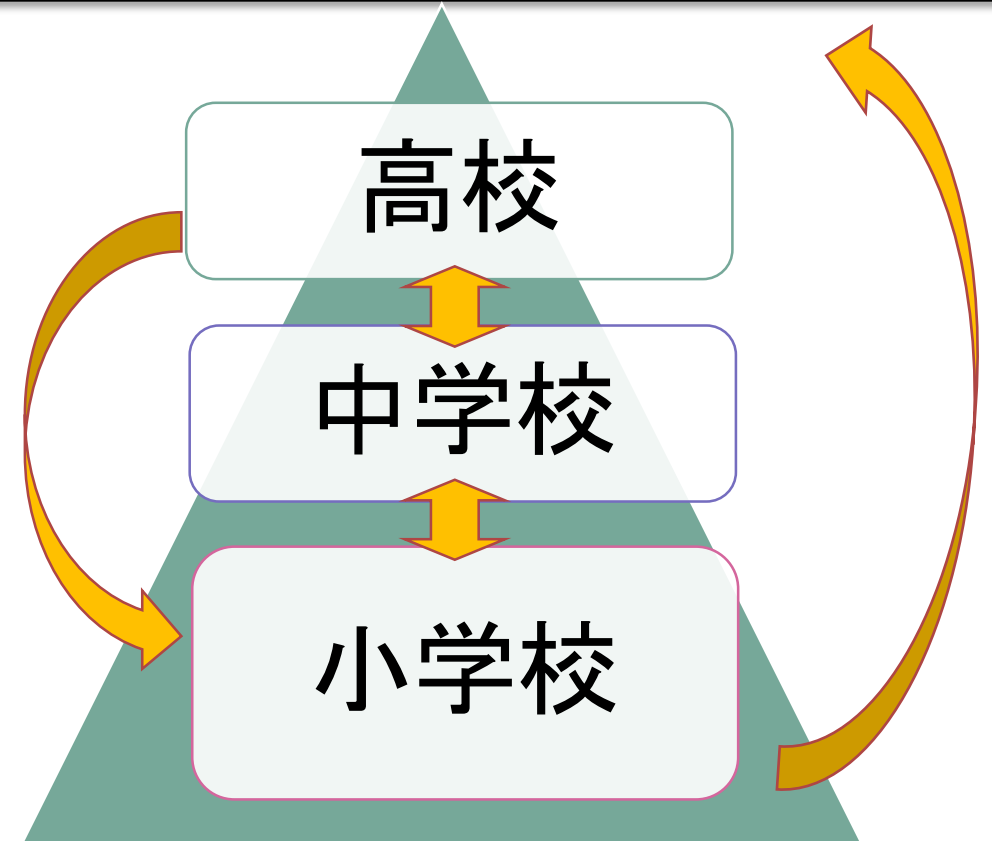
(次ページへ)

#### サクラマスプロジェクト目指す生徒像

(アドミッション・ポリシー)

(吉賀町サクラマスプロジェクト第二期と連動)

- 1 地域の様々な人と交流し、力を合わせることができる
- 2 地域の環境資源を活かした学びを基に自分と向き合う
- 3 地域の現状を知り、ふるさとの未来に向けて行動できる
- 4 地域の中で学ぶことにより、広い視野を身につける



### 町内のキャリア・パスポート実施状況調査（R4.3月実施）

（町内8校のうち、小学校3校・中学校3校を訪問し、聴き取り調査を行った）

～調査から見えてきた課題点～

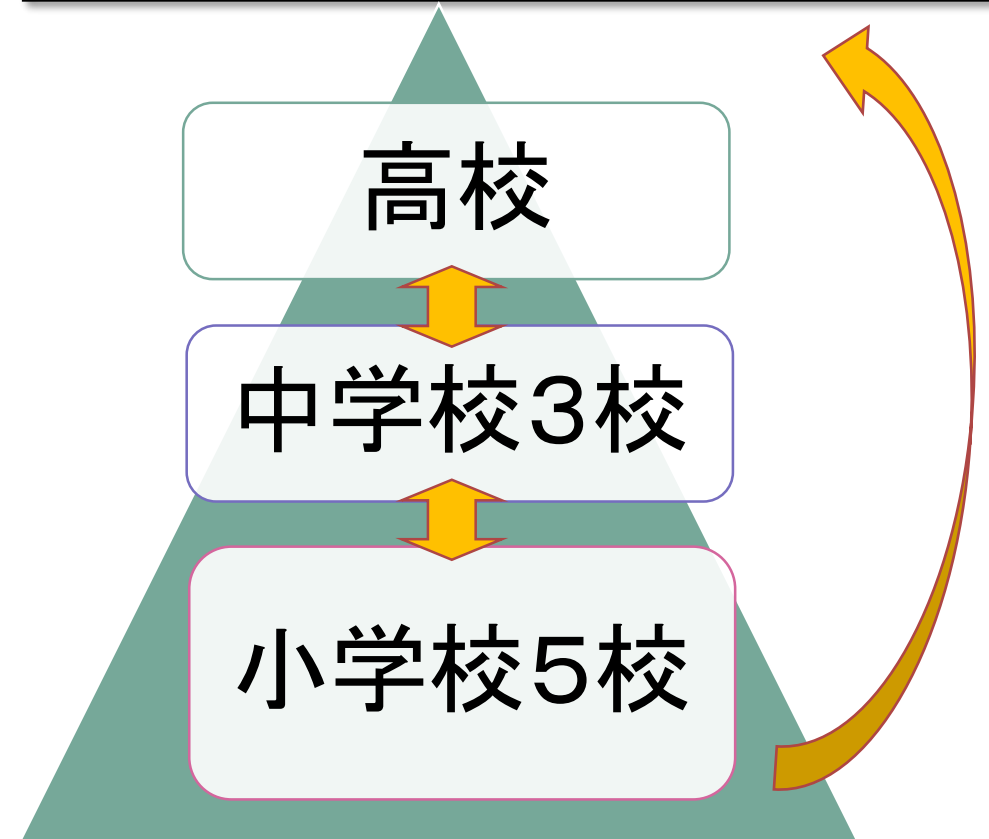
- ・学期ごとの「振り返りの視点」が学校によってバラバラ（サクラマスプロジェクトと連動している学校とそうでない学校とがある）
- ・学期ごとの振り返りシートだけで、年度初めのシートが無い場合や、キャリアパスに入れるシートの方針も各校バラバラ
- ・キャリアパスのファイルが年に1度しか教員・生徒の目に触れない学校もある
- ・「ふりかえりシート」を書くだけになっている

サクラマスプロジェクト目指す生徒像

（アドミッション・ポリシー）

（吉賀町サクラマスプロジェクト第二期と連動）

- 1 地域の様々な人と交流し、力を合わせることができる
- 2 地域の環境資源を活かした学びを基に自分と向き合う
- 3 地域の現状を知り、ふるさとの未来に向けて行動できる
- 4 地域の中で学ぶことにより、広い視野を身につける



### 町教委キャリアパス担当者との協議（来年度へ向けて）

（聴き取り調査を行った後、結果を共有し、改善点等を協議）

• 学期ごとの振り返りの視点が学校によってバラバラ（サクラマスプロジェクトと連動している学校とそうでない学校とがある。）

• 学期ごとの振り返りシートだけで、年度初めのシートが無い場合や、キャリアパスに入れるシートの方針も各校バラバラ

• キャリパスのファイルが年に1度しか教員生徒の目に触れない学校もある

• 「ふりかえりシート」を書くだけになっている

**町教委主催で、来年度始まってからなるべく早い時期に、小・中・高のキャリアパス担当者が一堂に会し、情報交換や協議をする場を設ける**

※学校目標とサクラマスプロジェクトの「目指す子ども像」を関連付け、その視点で振り返りができるようにする

※横の連携、縦の連携をとり、よりよい実践の形を一緒に考え、キャリアパスにどのようなものが蓄積されていたら良いかを一緒に考える

### 町教委キャリアパス担当者との協議（来年度へ向けて）

（聴き取り調査を行った後、結果を共有し、改善点等を協議）

### その他の意見

・そもそも小中1校ずつの地域では、子どものことを結構知っているので、わざわざキャリアパスを見て生徒理解に活用する必要がない・・・

・デジタルツールが浸透したことにより、今後キャリアパスのデジタル化についても検討必須（校種をまたいだデータ移行をどうするかも問題）



高校入学までに「どんなものがキャリアパスに残っていたらいいのか」を、高校から発信



まずは吉賀町教委のデジタル担当者と一緒に検討していく

### 小・中・高とキャリアパスでつなぎ、地域で子どもを育てる環境を醸成



#### サクラマスプロジェクト目指す生徒像

（アドミッション・ポリシー）

（吉賀町サクラマスプロジェクト第二期と連動）

- 1 地域の様々な人と交流し、力を合わせることができる
- 2 地域の環境資源を活かした学びを基に自分と向き合う
- 3 地域の現状を知り、ふるさとの未来に向けて行動できる
- 4 地域の中で学ぶことにより、広い視野を身につける

### 3) 校内でのキャリア・パスポートの活用(カリキュラム・マネジメントの視点で)

## グラデュエーション・ポリシーを実現するために

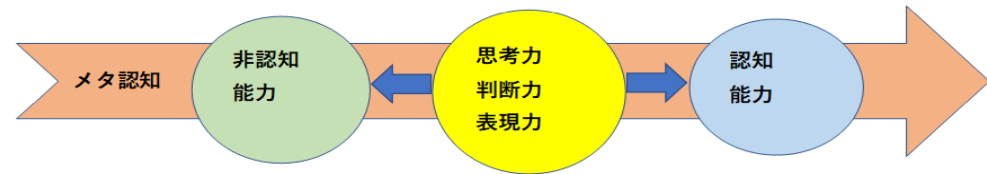
(教員自身が振り返りをして、生徒のキャリア・パスポートに反映させるために)

・キャリア・パスポートは決して「行事の振り返り」や「総合的な探究の時間の振り返り」だけではなく、学校教育全体を通した中長期的なふりかえりの時間である＝**教科学習ともリンクさせていく**

生徒育成方針	(グラデュエーション・ポリシー)
1	自他を尊重し、他者と協働できる人間の育成
2	当事者意識を持ち、粘り強く挑戦する人間の育成
3	答のない課題を解決するために行動する人間の育成
4	広い視野に立ち、未来を想像・創造できる人間の育成



### 「サクラマスプロジェクト」吉賀高校で育成したい資質・能力



～非認知能力8項目～

人間関係形成・社会形成能力	自己理解・自己管理能力	課題対応能力	キャリアプランニング能力
<b>自他を尊重する力</b> 自分と他者を大切に、多様性を認めることができる	<b>当事者意識</b> 何事にも自分ごととして取り組むことができる	<b>計画・実行力</b> 目標達成までのプランを立て、実行に移すことができる	<b>想像力</b> 他者の考えやこれから起こることを想像することができる
<b>協働する力</b> 多様性を尊重しながら合意を形成し、他者と協働できる	<b>挑戦する力</b> 少々困難に思えることでも果敢にチャレンジする	<b>振り返り学ぶ力</b> 失敗や成功の原因を明らかにし、次の実践に活かすことができる	<b>広い視野</b> 地域や世界の人々から様々な情報を収集して自分の考えを形成できる

**メタ認知**  
 集団の中の自分を俯瞰して捉えられる

### 3) 校内でのキャリア・パスポートの活用(カリキュラム・マネジメントの視点で)

## グラデュエーション・ポリシーを実現するために

(教員自身が振り返りをして、生徒のキャリア・パスポートに反映させるために)

・キャリア・パスポートは決して「行事の振り返り」や「総合的な探究の時間の振り返り」だけではなく、学校教育全体を通した中長期的なふりかえりの時間である＝**教科学習ともリンクさせていく必要性**



### (1) 校内カリ・マネ研修(8月・3月実施)

半期を振り返り、育成できている資質・能力、これからもっと伸ばしていきたい資質・能力について、学年×教科毎に考えた

⇒教職員自身も「育成したい資質・能力」を意識し、生徒にも意識させながら、教科学習や行事に臨む大切さを再確認

#### 生徒育成方針

(グラデュエーション・ポリシー)

- 1 自他を尊重し、他者と協働できる人間の育成
- 2 当事者意識を持ち、粘り強く挑戦する人間の育成
- 3 答のない課題を解決するために行動する人間の育成
- 4 広い視野に立ち、未来を想像・創造できる人間の育成



### 3) 校内でのキャリア・パスポートの活用(カリキュラム・マネジメントの視点で)

#### (2) キャリア・パスポート講演会(10月)

「非認知能力」を伸ばしていく大切さについて、岡山大学中山芳一准教授に生徒向け、教職員向けに講演をしていただいた

⇒生徒自身も「育成したい資質・能力」を前向きに意識し、前半期の振り返りが出来た。



#### (3) 岡山県立一宮高等学校視察(11月実施)

- ・身につける力(iコンピテンシー)を明示し、学校での全ての活動に「iコンピテンシー」を設定し、探究型授業を推進している
- ・校内のいたるところに「iコンピテンシー」が掲示してある
- ・校内組織を改編し、教職員全員が何かしらのプロジェクトチームに所属し、当事者性をもって業務に当たっている



#### (4) 校内プロジェクトチーム立ち上げ(来年度へ向けて)

- ・新しいループリック表の作成に向け協議(生徒やコンソーシアムメンバーも含める形で…来年度初め完成目指す)
- ・キャリア・パスポートを、総探と教科をつなぎキャリア形成に寄与できるものにバージョンアップ(大学とも連携し、改変する)



## 4) 今後について

### (1) キャリア・パスポートのワークシート再考

- ・ 基礎資料となるポートフォリオ、ふりかえりの質の向上
- ・ 探究テーマと教科等を往還できるワークシート作成

### (2) 「育成した資質・能力」を教育活動全般で

- ・ 新ループブックを、生徒やコンソーシアムメンバーを含めて協議し作成
- ・ 「育成したい資質・能力」を常に意識できるように、校内・教室に掲示

### (3) カリキュラム・マネジメントにも活用できるようにキャリパスも活用

- ・ 半期ごとの振り返りを、生徒だけでなく教員も行う
- ・ 教職員全体で情報交換し、生徒理解を深め、よりよい教育活動を目指す

### (4) 小・中・高の連携を町教委とともに進めていく

- ・ 担当者会議をできるだけ早く開催する
- ・ 情報交換し、高校まで見通したときに意味のあるファイルになるよう協議する

キャリア・パスポートを活用し、生徒一人一人が輝ける未来を共につくっていく



スクールポリシーの実現